

● 読書感想文コンクール 小学校 1・2・3 学年 の部 ●



三沢 楓 (さんさわ かえで) 第十小 3 年生

作品名:あやまる気持ち

図 書:ハロウインの犬

わたしは、「ハロウインの犬」という本を読みました。この本をえらんだのは、一年の中で一番ハロウインの行事がすきだからです。

この本の主人公はみほちゃんという女の子です。みほちゃんは楽しみにしていたハロウィンパーティーに、おばあちゃんのびょう気で行けなくなってしまい「おばあちゃんなんかいなくなっちゃえばいいんだ」と言ってしまいます。そしてすねてしまったみほちゃんはい犬のフリルといっしょに犬のハロウィンパーティーに行きます。

わたしがこの本を読んで一番心にのこったのは、犬のハロウィンパーティーから帰って来たみほちゃんが、お母さんに「わたしおばあちゃんにあやまらなきゃいけないの。」と言ったところです。みほちゃんは犬のハロウィンパーティーでホットドック屋さんのおばさんに二つの事を教えてもらいました。一つ目は、ハロウインの本当の意味です。それは、「一年に一度あの世からのおきゃくさまをおむかえする日」という事です。わたしはハロウインの事をかそうしおやつをいっぱいもらえる楽しい行事だと思っていました。多分みほちゃんもわたしと同じ様に考えていたと思います。みほちゃんはその言葉を聞いておばあちゃんに会ってあやまりたくなったのでした。

わたしは、みほちゃんがすなおにあやまる事が出来てすごいなと思いました。もしもわたしがみほちゃんの立場だったら、はずかしくてあやまれないと思ったからです。なぜならわたしもこういう体けんをした事があるからです。それは、お母さんに口ごたえをしたりお父さんとのやくそくをまもらなかった時にあやまれなかった事が何回もあったからです。わたしはいつも、あやまりたい気持ちとはずかしい気持ちがけんかしてはずかしい気持ちがかって「ごめんなさい」の一言が言えません。でも考えてみると、はんたいにあやまれなくてかなしい気持ちになったこともありました。それは、そうじの時間男の子がふり回していたほうきがあたったの

に、あやまってくれなかった時です。男の子は、わたしのようにはずかしい気持ちとあやまろうとする気持ちがその時まじっていたかもしれません。でも言葉に出さないと相手につたわりません。

わたしはこの本を読んで言葉に出し相手につたえる大切さを学びました。これからは、「ありがとう」「ごめんなさい」「どういたしまして」などの、相手に気持ちをつたえる言葉をこれからも使ってせっきょくてきに発言しようと思います。